



おもすの森

発行
大本山 本門寺根源
山務庁
富士宮市北山4965
電話 0544-58-1004

日蓮大聖人

御聖訓

法華經を信ずる人は冬のごとし、冬は必ず春となる。いまだ昔よりきかず、みず、冬の秋とかへれる事を。いまだきかず、法華經を信ずる人の凡夫となる事を。

『妙一尼御前御返事』

この御遺文は、建治元年（一二七五）五月、妙一尼（生没年不詳）が身延山の日蓮大聖人へ衣類を供養したことに對する礼状です。真蹟六紙が千葉県の中法華經寺に完存しています。

当時、妙一尼は夫を亡くし悲しみの渦中にありました。しかも妙一尼と「病子」「女子」を残して逝ってしまったのです。

法華經を信ずる人は冬のごとし

日蓮大聖人は、亡夫は法華經の故に命を捨てたのであるから成仏は疑いなく、また常に妻子を見守ってくれるであろうと述べられています。

しかも、妙一尼が健在ならば結構であるが、もし万が一の時は幼い子供達は私が見守ろうとの言葉をかけられています。

このような趣旨の御手紙の中で冒頭に掲げた一節が綴られるのです。

皆さんの中にも近親者を亡くして悲しみの日々を過ごしている方もいらっしゃるでしょう。この世の無常に感涙を禁じ得ません。私達はおたがい「冬は必ず春となる」と励まし合って仏道修行に励んで参りましょう。

御案内

御大事御本尊会

日時 令和七年七月十九日（土）
土用丑の日 午前十時
場所 本門寺根源 本堂

疫病退散のいわれのある靈驗あらたかな御大事御本尊を御開帳し、穢破い（しきみはらい）にて皆様の身体健全・無病息災を御祈念致します。年に一度の奉奠ですので、お誘い合せの上ご参詣下さい。

疫病退散
御大事御本尊御守
衆病悉除

「身代り守り」頒布

御大事御本尊御守

御靈宝疫病退散の御大事御本尊」を複写し、身代わり守りとして特別に頒布しております。

皆様の菩提寺である末寺寺院が窓口でございますが、郵送でも承っておりますので、ご希望の方はご連絡ください。電話〇五四四・五八一・〇〇四

御霊宝御風入会

四月十三日(日)午前十一時より、年中行事である御霊宝御風入会を奉修致しました。日曜ということもあり、当日は大勢の参拝者で本堂内を埋め尽くしました。

今年は、日興上人御所持念珠・扇子及び本年修復が完了した井出志摩守手形二通(修復施主三島市伊豆国分寺様・富士宮市本光寺様)、第十三世日延上人覚書一通



(修復施主富士市妙善寺様)、埼玉県本光寺様からは、日興上人御本尊・要法寺十三世日辰上人御本尊・特別奉奠として本年十七回忌に当たる四十八世日諄上人御本尊・御寶藏棟札・宇佐美市仏教会より寄贈された一切経等、十四点が、奉奠されました。

鈴木執事長より「歴代貫首様が身命を懸け御護りした御霊寶が御示し下さる通り、今を生きる我々は点でしかないが、点と点が繋がって線となり、過去・現在・未来へとお題目の信仰が紡いでいくのです。」と挨拶をされました。

式後に佐野布教伝道部長より説明があり、参列の皆様は興味深く耳を傾け、その後拝観されました。



本願人顕彰

御風入会当日、國本隆氏(大阪府)へ本山護持丹精の功德を讃え本願人顕彰が行われました。

旭日重貌下の御名代として鈴木執事長より、本願人輪袈裟と証書が授与され、感謝の意を述べられました。



本化垂迹天照太神祭

四月二十九日(火)午前十時より垂迹堂に於いて、鈴木執事長を御導師に本化垂迹天照太神祭を奉修致しました。当日は春らしい清々しい天候の下、重須孝行太鼓保存会による力強い太鼓の演奏が奉納されました。当日は重須婦人会・檀信徒の皆様と御唱えした御題目が太鼓の音と共に重須の森に響きわたりました。

鈴木執事長より「来年は、重須孝行太鼓保存会発足五十周年という大切な節目に当たり、日頃の精進を重ね、無事円成する事を願います」と御挨拶されました。



法縁総会

六月十七日、興統法縁島根大会が延福寺様に於いて、開催されました。同寺に於いて法見言上がな

されその後、会場を出雲大社へ移し、

「第四十六回興統法縁会総会」が開会されました。

鈴木執事長より本山の近況報告として、本山遠忌事業である本

門寺本堂・開山堂の修繕が本年夏より着手されますが参拝が出来ますので是非お参り下さいとご挨拶されました。

次年度の総会会場は蓮慶寺様(伊東市)に決まり、代務住職である田中日芳副会長(本山 實成寺)よりご挨拶され無事に第四十六回興統法縁会総会は閉会を致しました。



役員総会

五月二十四日、本山役員総会が方丈にて行われました。本年度より司判並びに大世話人の方々にお願いしたいのでの会議となりました。鈴木執事長より令和六年度会計報告・遠忌事業の進捗状況・本山近況報告などが報告されました。更に本山墓地の現状問題が報告され、墓地管理者として今後の方針案が説明されました。

当山格護御大事御本尊とは

表紙でもご案内の御大事御本尊会。今年は七月十九日に奉修されます。毎年夏季土用丑の日に特別に奉奠される御大事御本尊について解説致します。

日蓮大聖人が佐渡流罪より御赦免になり、鎌倉へと向かわれる途中、越後の御堂筋の村にさしかかりますと、白髪のお翁が大聖人の御前に現われました。

この村では疫病が流行っており、病魔退散の御祈禱と御守りを受け賜りたいと願い出られました。大聖人は、懐中より御守りの御本尊を授け、その霊驗あらたかな御大事御本尊により疫病は退散したと伝えられております。

鎌倉時代と令和の今日、時の隔たりはありますが、コロナ禍(疫病)が社会を揺るがし、人々の心を蝕んでいる事には変わりありません。

以前の生活環境を取り戻すには時間を要します。是非、心の平穏を取り戻す為に当山に御参拝頂き、大聖人の御心に触れ、年に一度の暑氣払い・疫病退散の御檀越いをお受けください。

尚、この御大事御本尊を板守りとして授与しますのでご希望の方は、当日お求めください。



小泉久遠寺 晋山式

四月二十日、本山久遠寺（富士宮市小泉）において第六十六世安藝日旺上人の晋山式が厳修されました。

開式に先立ち、日蓮宗田中恵紳宗務総長御名代として、静岡県中部宗務所塚本智秀所長より辞令伝達が行われ、久遠寺第六十四世旭日重貌下から安藝上人へ、法灯が継承されました。式衆に本門寺末寺各聖の出仕の下、厳肅に行われました。

御宝前において奉告文を読み上げる中、安藝上人は師匠への感謝の念が溢れ、涙がとまらぬ場面もありました。



安藝日旺貌下

ご挨拶の中で安藝新貫首は「山形で五十年住職として培った経験を糧に、小泉の地で檀信徒の皆様により添い、お題目の布教に励んでいく」と挨拶をされました。

その後、富士市のホテルに場所を移し、祝宴が開かれました。

法縁を代表し、堀江禎正副会長（島根県法蔵寺）より法縁の為に、遺憾なく手腕を発揮し御尽力をお願いしました。

結びに、小泉久遠寺田中日芳参与（伊豆實成寺）より経過説明と謝辞が述べられ、安藝貌下よりご挨拶があり、式を納めました。

京都要法寺 晋山式

五月八日京都日蓮本宗本山要法寺（京都市）様にて第五十三祖岩崎日求上人晋山式が執り行われました。

当山からは鈴木執事長が参列されこの慶事を御祝されました。同日は日尊上人の御命日忌でもあり併せて日尊上人第六八一年御報恩法要が新貫首岩崎上人により御回向されました。



岩崎日求貌下

要法寺様は日興上人の弟子である日尊上人御開山の由緒ある本山です。日尊上人といえど日興上人の講義中、風に散っていく梨の葉に氣をとられ勘当された後、京都を中心に全国で布教活動され十二年間で三十六カ寺を建立されました。御会式には欠かさず本門寺に登山し腰掛石にお座りになり、生御影尊にお参りされました。その後、死身弘法の功績により勘当を解かれ、日興上人の弟子として認められました。

この本門寺にとつても大変縁の深い寺院であり、我々教師も襟を正すところです。



京都要法寺の本堂

岩崎貌下 晋山報告来山

五月二十一日 日蓮本宗本山要法寺岩崎日求貌下・西尾執事長・随行人三名の方が晋山の御報告の為、御来山されました。

一行は生御影尊に渴仰拝礼され、引き続き日興上人御正廟において要法寺晋山第五十三祖として晋山された事を御報告をされました。



御生御影にご挨拶される岩崎貌下

『本門要軌』を読む 連載終了のご挨拶 阿部和正

おもしろ森、第一三三三号より第一六五号までの約三年間にわたりまして、『本門要軌』を読むを本誌に連載させて頂きましたが、諸般の事情によりまして、当連載を前号をもちまして一旦終了とさせて頂いた運びとなりました。皆様方には連載中、温かいご支援ご指導を賜りまして心より御礼を申し上げます。『本門要軌』は日蓮宗の宗旨であります『三大秘法』に即した法要儀軌であり、南無妙法蓮華經の五字七字に帰結する様に構成されております。またいずれで共に学ぶ機会がありますことを願います。

誠に有難うございました。 合掌

第11回 清掃奉仕のお願い

7月18日(金) 午前9時～10時30分(雨天翌週25日)

今回の清掃奉仕は、8月のお盆を迎える為の道場荘厳であります。清掃奉仕によって共に汗を流し、自分自身の心の垢も一緒に流しましょう。そして、清らかな気持ちで仏様をお迎え致しましょう。

＝持ち物＝

清掃用具・草刈り機・ブロワーをお持ちの方はご持参ください。
燃料は本山で用意致します。



法華經に学ぶ 第三十二回

布教伝道部 浦野 弘正

まごらが しょうおう てんりんじょうおう
摩睺羅伽・小王・転輪聖王

今回は「摩睺羅伽」「小王」「転輪聖王」という方々も、法華經の会座にいらつしやるところまでお話ししました。この方々も、このあと何度も登場しますのでご紹介します。

最初の「摩睺羅伽」は「Mahoraga マホーラガ」の音写で、大いなる腹這うもの、大うわばみという意味の神さまです。天龍八部衆に数えられていて、大蛇の神さま・蛇神だと考えられています。後半の章では何度も登場します。

次の「小王」は様々な王様です。お經に登場する王様は、村の酋長さんや村長さんを指した言葉だったようです。そしてその中でも王様の理想とされるのが「転輪聖王」さまで、「天から頂いた宝輪を廻すことによつて四方を征服し、統治する王様」とされます。

教えが説くことを「法輪を転ずる」ともいいます。最初のお説法を「初転法輪」といいますが、同様に、転輪聖王さまは仏さまに限りなく近いお姿で、武力にも脅迫にもよらず、正義を力として国を治めるといわれます。この「正義」を表しているのが「宝輪」で、これが「法輪」に通ずると考えれば、法輪＝法華經と置き換えることができ、「法華經を以て国を治めることが理想」であることを表す王

名称	よみ	特徴
1 足下安平相	そっかあんぴょうそう	足の裏が平らで、地を歩くとき足裏と地と密着する。
2 足下二輪相	そっかにりんそう	足の裏に輪形の輻輪がある。
3 長指相	ちようしそう	手足の指が長くて繊細である。
4 足跟広平相	そっこんこうぴょうそう	足のかかとが広く平らである。
5 手足指綬網相	しゅそくしまんもうそう	手足の各指の間に水かきのような全色の膜がある。
6 手足柔軟相	しゅそくにゅうなんそう	手足が柔らかで、色が紅赤をしている。
7 足扶高満相	そくふこうまんそう	足踏すなわち足の甲が厚い。
8 伊泥延膊相	いでえんぱくそう	鹿の王である伊泥延（いでえん）のようなふくらはぎをしている。
9 正立手摩膝相	しょうりゅうしゅましっそう	直立したとき両手が膝に届く。
10 陰蔽相	おんぞうそう	馬のように陰相が隠されている。
11 身広長等相	しんこうちやうとうそう	身長と両手を広げた長さが等しい。
12 毛上向相	もうじやうこうそう	体の全ての毛の先端が全て上になびき紺青色をしている。
13 一一孔一毛生相	いちいつくいちもうしやうそう	身体全ての毛穴に一毛を生じていて毛孔から微妙の香気を出し青瑠璃色である。
14 金色相	こんじきそう	身体手足全て黄金色に輝いている。
15 丈光相	じやうこうそう	身体から四方にそれぞれ一丈の光明を放っている。
16 細薄皮相	さいはくひそう	皮膚が軟滑で一切の塵や垢などの不浄を留めず、清らかに保たれて
17 七處隆満相	しちしりゅうまんそう	両掌と両足の裏、両肩、うなじの合計七ヶ所の肉が円満である。
18 両腋下隆満相	りやうえきげりゅうまんそう	両腋の下にも肉が付くほどでない。
19 上身如獅子相	じやうしんによししそう	上半身が獅子王のような威厳がある。
20 大直身相	だいじきんそう	身体は広大で端正である。
21 肩円好相	けんえんこうそう	両肩の相が丸く豊かである。
22 四十齒相	しじゅうしそう	40本の歯を有し清潔である。
23 齒齊相	しせいそう	歯はみな大きさが等しく美しい。
24 牙白相	げびやくそう	とくに白く大きな四牙がある。
25 獅子頬相	ししきやうそう	両頬が獅子王のようである。
26 味中得上味相	みちゅうとくじやうみそう	何を食べても食物の最上として味わえる。
27 大舌相	だいぜつそう	舌が広く長い。
28 梵声相	ぼんじやうそう	声は清浄で遠くまで聞える。梵音声(ぼんのんじやう)とも呼ばれ
29 真青眼相	しんしやうげんそう	紺青色の眼をしている。
30 牛眼睫相	ごげんしやうそう	睫(まつげ)が牛王のように長く整っている。
31 頂髻相	ちやうけいそう	頭のてっぺんが隆起して髻(もとどり、まげ)の形を成している。
32 眉間白毫相	みけんびやくこうそう	眉間に右周りの白毛があり、光明を放つ。

様、と考えることもできます。日蓮大聖人も「法華經の精神で政治が行われることを願い」、当時の執権・北条時頼に対して『立正安国論』を提出されています。

此土六瑞⑥放光瑞

皆が喜び合っているその時、お釈迦様は眉間の白毫相から光を放ちます。これが「放光瑞」です。本文「爾時仏放眉間白毫相光、上至阿迦尼咤天」(『開結』六〇頁、六一頁、『岩波(上)』一八頁)がその様子です。

眉間白毫相と仏の三十二相・八十種好

また、三十二相と重複する特徴もあります。が、細かい特徴を挙げると八十あるので「八十種好」ともいいます。御經文の中では「三十二相八十種好」と、両方を合わせて仏さまを表しています。八十種好は列挙できませんが、三十二相の一覧が右の表です。

眉間白毫相は、その三十二相の一つで、仏さまの眉間にあって、眉毛とは違う白い毛が右巻きになった塊をいいます。(続く)

盂蘭盆

お盆について



日蓮大聖人の御遺文にお盆について言及された一節がございます。『本門要軌』にも収録しており、本堂の朝勤でも拝誦しています。簡単に内容をご案内しますと、私達が法華経を信じ、お盆の時期にご先祖様を供養することで、私達の父母も祖父父母も、ひいては七代前のご先祖様も仏になることができ、さらには子や孫、七代先の子孫までも仏になることができるという説かれております。

お盆について、Q & Aでおさらいしてみましよう。

Q1 お盆には、どういう由来があるのでしょうか？

A1 お盆は、お彼岸と並ぶ先祖供養の法会です。もともと、ブツの弟子目蓮尊者が、餓鬼道に堕ちた母親の苦しみを救った由来を説いた『説孟蘭盆経』の経説に拠って始められました。日本では、伝わってきた仏教思想と伝統的な宗教儀礼が結びつき、現在のお盆の習慣が出来たと考えられます。



Q2 お盆の期間は、何をしたらいいのでしょうか？

A2 お盆を迎えるにあたっては、仏壇やお墓を清掃し、仏壇前に精霊棚をつります。また迎え火を焚き、ご先祖様をお迎えします。精霊棚には菰(むしろ)を敷いて位牌を安置し、果物や菓子、茶湯、霊膳その他種々の供物を供えます。また盆中は提灯をつけておきます。この期間は、ご先祖様が私たちと共に生活しているとされています。盆が終われば、送り火を焚いて、ご先祖様を送り出します。尚、しきたりは土地によって違いがあるので、ご注意ください。

Q3 我が家では茄子を刻んだものを蓮の葉にのせているのですが、これにも意味はあるのですか？

A3 それは「求の子」(求の実)といって餓鬼に対する施しの意味があります。また水を入れた器に、みそそぎ等の枝を添えておくのは、餓鬼に対する洒水供養のためです。精霊棚の隅やそれより一段低く棚を設けて種々の飲食を供えることを「無縁棚」といいますが、これは「あまねく一切に及ぼす」という法華経の思想にそった供養の仕方です。

参考 日蓮宗ポータルサイト

五心を修養する少年少女

「おもす道場」開校 八月十六〜十七日

昨年に続きまして、少年少女の心身健全を図る為の「おもす道場」を開校致します。本年も一泊二日の日程で、日頃体験出来ないお寺での生活を夏休みの思い出として頂きたいと考えております。子供孫達に呼び掛けて頂き、ご参加をお待ち致します。

参加希望の方は、同封のチラシ申込書にご記入の上、本山迄お持ちください。

流しそうめん

重須孝行太鼓

竹灯籠作り

夏休み

おもす道場

第4回

お寺で楽しく心を養う

8/16(土)〜8/17(日)

参加者募集

概要	日時	令和7年8月16日(土) 9:00 集合 令和7年8月17日(日) 12:00 解散
	会場	法華本門寺根源
	対象	小学3年生〜中学3年生 (申込締切 8/10 まで 定員 30 名になり次第受付終了)
	参加費	2,000 円 (保険料含む)
【目的・内容】		
お寺で楽しく五心を学び心を養う体験道場です。各地で活躍する重須孝行太鼓の皆様と交流したり、数珠作り体験、流しそうめん、他にも楽しい催しを用意していますのでどうぞご参加下さい。		
五心とは、一、「すみません」という反省の心 二、「おかげさま」という謙虚な心 三、「はい」という素直な心 四、「私がします」という責任の心 五、「ありがとう」という感謝の心		
【お問合せ】		
法華本門寺根源		
静岡県富士宮市北山 4965		
TEL 0544-58-1004		



本門寺堀紙芝居

三月二十三日、富士宮市地域女性連絡会主催「第三十九回 地域文化をほりおこす市民のつどい」に於いて一昨年世界灌漑遺産に認定された【本門寺堀・北山用水】の紙芝居完成上映がされました。

当会は地域の活性化と生涯学習の推進を図る活動の一環として、地域に伝わる歴史や民話をほりおこし、毎年手作りの大型紙芝居を創り続けており、今回は四十作品目と節目の作品となりました。

当会の土屋会長は、「紙芝居を通じてより多くの市民の方々に富士宮市の歴史や民話を伝え弘め後世に残していきたい」と話されました。



この本門寺堀が紙芝居となり富士宮市の皆様に周知され、本門寺への参拝者が増え、北山地区そして富士宮市の発展につながるものであると感じます。

又、来年五十周年を迎える重須孝行太鼓による演奏も披露されました。

重須婦人会総会

四月十一日、本門寺にて、重須婦人会の総会が行われました。一年間を振り返り婦人会の活動報告

がされ、奉仕(月二回の清掃)と信仰(法要での題目修行)の両面で心を磨かれていることに感謝申し上げます。井出和子会長挨拶の下、役員並びに新会員の紹介がなされました。

重須孝行太鼓保存会総会

四月二十五日本門寺にて重須孝行太鼓保存会総会が行われました。齋藤会長ほか二十五人が参加し、来年発足五十周年を迎えるにあたり様々な意見が交わされました。

重須孝行太鼓保存会の皆様の協力をもつてより良いものにし、多くの子供達に参加してもらい非日常生活の中で楽しく心を養い、お寺に少しでも関心を抱いてもらえればと思います。

環境整備ご報告

方丈玄關照明新調・下足入寄贈

役課有志の奉納により、方丈玄關天井の照明をダウンライトに交換しました。

今まで味気ない玄關でありましたが『法喜禅悦』の額も併せて移設し、大本山としての落ち着いた雰囲気



なりました。方丈の下足入は久成寺様より寄贈頂きました。

境内植木剪定作業

鈴木執事長と阿部師により、梅雨入り前に、本堂・開山堂の雨樋・天水桶の清掃及び、草木が勢いを増す夏に向けて、方丈・通路・客殿・仁王門・本堂・鎮魂廟等の周辺の植木剪定を行いました。広い境内地でありますので作業が捗りませんが、お盆前には御廟所・駐車場など出来る限り手を入れ、来山される方に気持ちよくお参り頂きたいと思っております。



本堂シャッターの故障

五月末に本堂のシャッターが故障し、現在御開帳が出来ない状態です。参拝される皆様にはご迷惑をおかけ致します。

桜倒木撤去

ふれあい広場近くの桜木が倒木し、その片付け作業を大世話人(石川達三氏・松原勝政氏)・近隣有志の方数名で重機を使い撤去して頂きました。感謝申し上げます。



障子の張り替え

新書院の障子張り替え作業を鈴木雄大主事・川名義敬主事・阿部央師の三人で手際よく行いました。破れて黄ばんだ障子を張り替えて頂き、部屋も明るさを取り戻しました。

北山小学校講話

四月三十日(水)、本門寺本堂に於いて、北山小学校四年生(二二名)の課外学習が設けられました。本門寺堀のお話を布教伝道部岡田勸正主事から説明がされました。

その後、本門寺堀を見ながら子供たちは、本門寺堀の歴史に興味深く聞き入っていました。



三十万人講決算報告

来る令和十三年の日蓮大聖人七五〇遠忌並びに令和十四年の御開山日興上人御正當七〇〇遠忌に向け、本年一月より「三十万人講」の名称を令和十四年の御遠忌を迎える迄の間「遠忌報恩事業」として、広くご案内致しました。従いまして、三十万人講会計は令和六年四月一日より同年十二月三十一日迄の決算報告となりますのでご理解の程お願い致します。

決算報告 (一〇一万円)

須加 晃仁様 二十口
西之坊護持会様 十口
渡井 久幸様 〃
杉本 龍吉様 二口
矢邊 毅様 一口
小野 恭敬様 〃

合計 四十四万円

※令和六年四月一日より

十二月三十一日迄

塔中特別志納の報告

塔中寺院様には令和六年度分として、別途に特別志納の御丹誠を頂き、誠にありがとうございます。

令和六年度分 (一〇一万円)

養運坊様 二十口
養仙坊様 十五口
西之坊様 十五口
蓮行坊様 十五口
東陽坊様 十口
合計 七十五万円

塔中末寺護山志納の報告

令和三年度より毎年実施しております塔中末寺による毎年の本山護持志納について、各山各聖の御理解を頂き、御志納を賜り、篤く御礼申し上げます。

令和六年度分 (一〇一万円)

養仙坊様 塔中 十五口
養運坊様 〃 二十口
蓮行坊様 〃 十五口
西之坊様 〃 十五口
東陽坊様 〃 十口
大乗坊様 〃 十五口
本妙寺様 富士宮市 十五口
正林寺様 〃 五口
本光寺様 〃 二十口
本源寺様 〃 二十口
法華寺様 〃 二十口
東光寺様 〃 五十口
本國寺様 富士市 三十口
福泉寺様 〃 二十口
妙善寺様 〃 三十口
本能寺様 沼津市 三十口
久成寺様 御殿場市 二十五口
蓮正寺様 伊東市 十口
伊豆国分寺様 三島市 二十口
妙隆寺様 静岡市 五十口
正法寺様 山梨県 十五口
本照寺様 〃 十口
本源寺様 〃 五十口
本妙寺様 〃 五十口

下段に続く

遠忌事業丹精者の報告

※令和六年四月一日、
令和七年三月三十一日迄
合計 五百二十万円

宗川寺様 神奈川県 二十口
本禅寺様 〃 二十口
蓮妙寺様 〃 十口
常在寺様 〃 十五口
蓮華寺様 東京都 二十五口
法輪寺様 〃 二十五口
本法寺様 埼玉県 二十口
本光寺様 佐渡市 五十口
顕本寺様 岡山県 二十口

令和十三年、高祖日蓮大聖人第七百五十遠忌 また翌十四年 御開山白蓮阿闍梨日興上人第七百遠忌を迎えるに際し貫首猊下発願の下、開始致しました「御報恩事業勸募」に際し、格別なる御懇志を賜り、心より御礼申し上げます。

令和七年一月より五月末に御志納頂きました方々の御芳名を掲載頂きます。尚、六月以降に御志納された方は次号にて掲載させて頂きます。

末寺院・護持会 (一〇一万円)

顕本寺様 岡山県 二百三十口
法輪寺様 神奈川県 二百口
本光寺様 富士宮市 〃
伊豆国分寺様 三島市 百四十口
本禅寺様 神奈川県 百口
西之坊様 塔中 九十口
蓮妙寺様 神奈川県 五十口

下段に続く

檀信徒

本光寺様 佐渡市 三十口
妙隆寺様 静岡市 二十口
行泉坊様 塔中 〃
本源寺様 富士宮市 十口
大乗坊様 塔中 〃
本源寺様 山梨県 一口
養仙坊護持会様 二十口

教師

齋藤 静雄 上人 神奈川県 五百口

檀信徒

齋藤 益正 繁美様 富士宮市 百口
後藤 幸夫様 富士宮市 十口
創進 特殊金属様 埼玉県 〃
今野 正文様 東京都 〃
佐野 昌彦様 富士宮市 〃
勝亦 静男様 富士宮市 五口
石川 武様 富士宮市 〃
仙田 千治様 神奈川県 三口
保坂 たつ子様 富士宮市 〃
加藤 貴之様 富士宮市 〃
國本 隆様 大阪府 二口
杉崎 省三様 神奈川県 一口
永田 正二様 富士宮市 〃
石川 深千欣様 富士市 〃
赤池 洋人様 富士宮市 〃
藤田 将二様 富士宮市 〃
旭 光徳様 御殿場市 〃
廣崎 賢太郎 商店様 神奈川県 〃
古谷 澄子様 富士宮市 〃
松永 省吾様 富士宮市 〃
太田 川一郎様 富士宮市 〃
藤巻 孝典様 富士宮市 〃
仙田 宏子様 神奈川県 〃
清水 寺様 千葉県 〃
江副 寛伸様 佐賀県 〃
杉本 龍吉様 富士宮市 〃

合計 千七百九十七万円

教学研修会開催

遠忌事業の一環として、講師に本間俊文先生(立正大学)を招き法縁教師を対象に教学研修会を左記の通り開催致しました。

五月十五日 第九講『弟子分帳』にみる日興上人とその門弟(二)

六月二十六日 第十講日興上人の曼荼羅本尊書写(一)を主題としてこの度も貴重なご講義を頂きました。

次回は 七月二十五日三輪是法先生(立正大)学(第九講「近代における日蓮研究」を予定しております。一人でも多くの教師の方に、ご聴講頂けますよう御案内を申し上げます。

伊東行蓮寺団参

六月四日 行蓮寺 曾根 顕祐上人(伊東市)一行

六名が身延山輪番奉仕の帰り道に当山へお参りされましました。ご参拝有難うございます。



北山中学校講話

五月八日、北山中一年生・三年生に対する講話が行われました。体育館においては修学旅行を控えた三年生に向けて、寺院拝観の心得を佐野布教伝道部長が説明されました。

本門寺本堂においては、は新一年生に向けて、本間主敬主事・川名義敬主事が北山本門寺の歴史、日尊上人と梨の木縁起について講話を行い、一年生は北山地域の歴史に関心を寄せていました。

講話後の質問コーナーにおいては、お寺や僧侶に対する疑問を投げかける意欲的な姿も見られ、充実した様子でお寺をあとにしました。



新寂回向の御報告

菩提寺様よりお申し込みいただきました新寂霊位は、日々の晨朝勤行にて、御回向させていただいております

三月

養蓮坊	故	小林 忠 様
養蓮坊	故	久保田治盛 様
宗川寺	故	杉山 恒雄 様
宗川寺	故	仙田 功 様
宗川寺	故	鎌田 宗勝 様
久成寺	故	秋山 登美子 様
久成寺	故	土屋 朗 様
久成寺	故	梶 祥恵 様
久成寺	故	滝口 哲江 様
養蓮坊	故	木下 忠治 様
蓮妙寺	故	塩川 芳江 様
宗川寺	故	稲山 悦子 様
久成寺	故	滝口 あい子 様
久成寺	故	土屋 達子 様
久成寺	故	岡村 よし子 様
久成寺	故	吉岡 ノブエ 様
西之坊	故	青木 芳照 様
東陽坊	故	寺田 英子 様
久成寺	故	長澤 勝夫 様

四月

東陽坊	故	渡井 文子 様
久成寺	故	勝又 大介 様
養仙坊	故	望月 孝 様
養仙坊	故	石川 八重子 様
正林寺	故	望月 敏子 様
正林寺	故	望月 三千夫 様
正林寺	故	朝比奈早苗 様

五月

正林寺	故	渡邊 政晴 様
正林寺	故	渡邊 共子 様
東陽坊	故	寺田 文彦 様

六月

久成寺	故	杉山 士郎 様
久成寺	故	平川 善朗 様
養蓮坊	故	赤池みえ子 様
養蓮坊	故	前島 明恵 様
養蓮坊	故	佐野 康満 様
養蓮坊	故	伊藤 智子 様
養蓮坊	故	石川 成章 様

ご冥福をお祈り申し上げます
※六月二十六日迄申込み分

護山志納報告

令和七年度分

塔中	東陽坊 様
〃	養仙坊 様

護山志納金をお納め頂き
篤く御礼申し上げます

本門寺の主な予定

七月

十八日 第十一回清掃奉仕
十九日 御大事御本尊会
二十五日 三輪先生勉強会

八月

十三、十六日 孟蘭盆会
十六、十七日 おもす道場

九月

二十、二十六日 秋季お彼岸
二十三日 秋季彼岸会法要

丹精者御芳名

供米

養仙坊 様・東陽坊 様
西之坊 様・養蓮坊 様
蓮行坊 様

献茶

伊東 行蓮寺 様

献花

北山 星谷とみ子 様

諸堂・境内清掃・作業奉仕

重須 婦人会 様
塔中 寺庭 婦人 様
石川 由緒 家 様
静岡市 紺文シルク 様

倒木撤去

北山 石川 達三 様
北山 松原 勝政 様
近隣 奉仕者 様
篤く御礼申し上げます